

◆希少がんとは

患者さんの数が少なく、まれに見られる悪性腫瘍を総称して“希少がん”と呼んでいます。希少がんは 200 種類近くもありますが、発生頻度が低くデータが十分でないために診療上の課題が多いとされています。

当院では様々な分野の専門医が在籍しており、現時点で入手可能なデータを検討し、患者さんにとって最適な治療の提供を心がけております。また当院での対応が難しい症例に関しては、より専門性の高い医療機関への紹介も行っておりますので、安心して治療を受けていただけます。

希少がんについての詳細は、国立研究開発法人国立がん研究センター 希少がんセンターのサイトをご覧ください。

国立研究開発法人国立がん研究センター 希少がんセンター <https://www.ncc.go.jp/jp/rcc/index.html>

◆小児がんについて

小児がんとは、小児がかかるさまざまながんの総称であり、一般的には 15 歳未満にみられるがんのことです。主に白血病や脳腫瘍、リンパ腫や胚細胞腫瘍、神経芽腫等が挙げられます。小児がんは、風邪のような症状や痛みが続くというような、一般的な理由で医療機関を受診した際に発見されるケースも少なくありません。

当院では、がんと診断された小児患者さんの治療は行っておりません。しかしながら、より専門性の高い治療を行っている医療機関との協力体制を構築しており、専門医へのご紹介を行っております。

◆AYA 世代とは

Adolescent and Young Adult（思春期・若年成人）の頭文字をとったもので、主に 10 歳代半ばから 30 歳代までの世代を指します。この世代のがんは、希少がんの側面を持つことも少なくありません。また、検診を含め医療機関への受診機会が少ないため、比較的進行してから発見されることも特徴として挙げられます。AYA 世代は中高生から社会人、子育て世代へとライフステージが大きく変化する時期であり、就学や就労、出産、子育て等さまざまな支援を必要とします。このような時期にがん罹患してしまった場合には、個人のライフイベントに合わせた個別性の高い支援を要すると考えられます。

当院では、がん相談支援センターを設置して、患者さんのサポートを行っています。